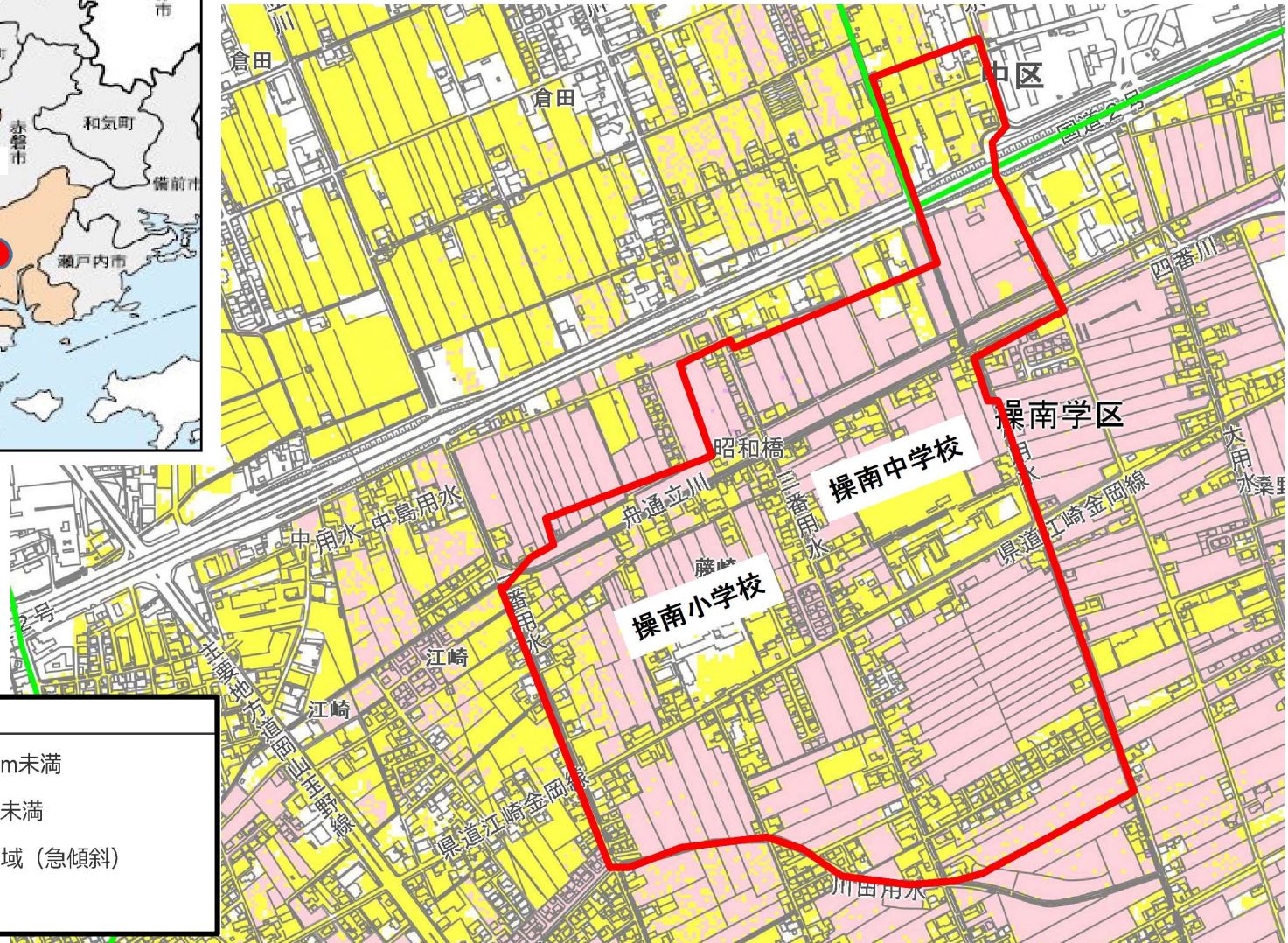


個別避難計画作成における 事例発表

上 藤 崎 町 内 会
笠松 里香 (防災士)

上藤崎町内会 (167世帯)

洪水ハザードマップ



凡例	
0.5m未満	0.5~1m未満
1~2m未満	2~3m未満
避難場所	警戒区域 (急傾斜)
学区	

はじめに（モデル事業開始前）

1 要支援者のご家族へ聞き取りを実施（令和元年）

聞き取り1回目

- 町内会長と防災担当副会長（笠松）で担当。電話や訪問で支援者がいるかどうかを確認した。（要支援者へ事前連絡は行わなかった。）

課題

- 要支援者全員に支援者はいた。なぜ町内会へ共助を求めるのか分からなかった。

課題に対する取り組み

- 支援者を把握することに留め個別避難計画の書類は作成しなかった。（関係者打ち合わせ、支援者への責任や負担、書類の管理等の考案が難しいため）

2 防災士養成講座を受け聞き取りが不十分だったことに気づいた（令和2年）

研修で学んだこと

- 要支援者が一人になる時間帯に共助が必要であること。
- 個別避難計画は要支援者が安全に避難できる方法を記入したものであること。（検証含む）

聞き取り2回目（担当：笠松）

- 家族構成（町内会名簿を使用）、家族の仕事の状況、要支援者の体の状況、避難する方法、支援者を確認した。
- ※ 個別避難計画書を要支援者のご家族へ見せて、聞き取りをする目的を丁寧に説明したことで、具体的な内容を理解してもらい、全て答えてくれた。

個別避難計画作成について（モデル事業開始）

0 危機管理室と主軸の確認（令和3年4月）

対応内容

- 当時の個別避難計画のフォーマットは書きづらいため、独自のフォーマットで作成して危機管理室に確認してもらう。

課題

- 避難先の再検討が必要。
 - ✓ 町内で小学校または中学校へ避難すると決めていても、要支援者の体調や症状によって避難先は変わってくる。

課題に対する取り組み（聞き取り3回目）

- 要支援者のご家族へモデル事業の説明をして了承を得る。（笠松）
- ケアマネージャーの連絡先を聞く。（笠松）
- ケアマネージャー等の福祉専門家に避難先について意見を聞く。（危機管理室）

結果

- 要支援者やご家族の気持ちを考慮した避難先の検討が重要である。
- 上藤崎町内で想定される浸水の深さをハザードマップで確認し、自宅の2階へ避難可能ならば垂直避難も選択肢の1つである。

恒久対策

- 住まいと災害リスクとご本人の状況を踏まえて避難先が決まる**聞き取り用チェックシート**の作成を危機管理室へ依頼する。⇒作成完了

個別避難計画作成について（手順）

1 個別避難計画作成が必要な方（要支援者）を確認

対応内容

- 市から送られてくる避難行動要支援者名簿から災害時、避難行動に対して支援が必要な要支援者を確認する。

2 計画作成に関わる役員メンバーを決める

対応内容

- 町内会長（笠松）1人で行う。（令和3年）

課題

- 役員1人で対応するのは負担が大きい。
- 会長が活動できないときに代理で動ける人がいない。
- **1人だと聞き取りの際に情報を聞き漏らす可能性がある。**逆に、情報を共有する役員の人数が多くなると**要支援者の個人情報**が広がる恐れがある。

課題に対する取り組み

- **役員3名（町内会長、副会長、要支援者が属する班の班長）で対応することとした。**
※令和3年4月～7月は町内会の事業が詰まっているため町内会長1人で対応し、同年8月から副会長と班長も加わった。

個別避難計画作成について（手順）

3 要支援者のご家族から聞き取り等を行う

対応内容

- 令和3年7月、危機管理室の同行のもと、町内会長が聞き取りを行った。
- 目的を丁寧に説明し、的確に聞き取りするため、聞き取り用チェックシートを使用した。
- 避難先や避難経路の確認、避難時に支援者となりうる人を話し合った。

ポイント

- 要支援者のご家族は普段付き合いのない人に個人情報を提供してくれにくいため、事前に連絡し、なおかつ話しやすい環境を作って聞き取りをする必要がある。
- 自宅の2階へ避難可能ならば垂直避難も選択肢の1つであることを知ってもらう。
- 支援者のご家族のみの場合は支援の輪を広げる必要がある。要配慮者やご家族にとって身近な町内会員に支援をお願いする必要がある。

工夫

- 日程と場所（ご自宅または公民館）は要支援者のご都合を聞いて調整した。要支援者のご家族にとって話しやすい人に同席してもらうことも勧めた。
- 要支援者のご家族に打ち解けてもらえるように、普段から声掛けし、話ができる関係性づくりに取り組んだ。
- 聞き取り用チェックシートの利用と体育館で避難生活を送るリスクの説明をすることで、要支援者の体調に合った避難先を決定することができた。
- 町内会員で元民生委員の方に協力してもらって支援の輪を広げることができた。

個別避難計画作成について（手順）

4 関係者で打ち合わせを行う

対応内容

- 令和3年8月、計画作成における関係者全員（要支援者のご家族、支援者全員、町内会長、副会長、班長）で操南公民館に集まって打ち合わせを行った。（危機管理室も同席）
- 町内会長が進行のもと、目的を丁寧に説明し、町内会長作成の打ち合わせ用チェックシートを使用した。
 - ※ 打合せ内容：災害リスク、支援者、要支援者と要支援者のご家族と支援者の関係性（気軽に話し合える関係かどうか）、避難のタイミング（警戒レベル3）、避難方法、避難経路、上藤崎避難訓練への参加確認、お互いの連絡先交換（携帯番号）など。

ポイント

- 個別避難計画は要支援者と支援者の双方が納得できたものでなければいけない。また実際に訓練して検証した方がより実行性の高いものになる。
- 要支援者を町内会で支援していく認識を共有する必要がある。
- 度々集まれないので確認漏れが起きない工夫が必要である。
- 要支援者ごとに支援する内容は異なる。

工夫

- 顔合わせ、課題の抽出、意見のすり合わせ等を関係者全員で行った。
- 要支援者ごとに打ち合わせの日時を分け、内容も個別のチェックシートを作った。そのチェックシートは出席者全員へ配布し個別避難作成完了後に会長預かりで廃棄した。
- 個別避難計画作成を踏まえた上藤崎避難訓練（安否確認、避難経路確認）を計画した。

個別避難計画作成について（手順）

5 個別避難計画書を作成する

対応内容

- 関係者で打ち合わせをしたときに個別避難計画書を作成する。支援の内容によって、その場で全てを作成できる場合もある。

課題

- 支援者が要支援者のことをよく知っているかどうか、また要支援者の症状によって、訓練してからでないと支援者から署名をもらえない場合がある。

課題に対する取り組み

- 記入できる範囲で作成し、残りは訓練後に作成する。



関係者で打ち合わせ

個別避難計画作成について（手順）～検証～

6 上藤崎町内会避難訓練をする

訓練内容

- タスキによる安否確認をする。
- 班ごとに集まって避難場所（操南小学校または操南中学校）まで避難する。
- 全体で訓練の振り返りを行う。（操南中学校体育館）

ポイント

- 要支援者は大勢の人がいる場に出るのを拒む人も多い。
- 要支援者や支援者は初めての訓練になるためサポートする人が必要である。
- 要支援者名簿に載っていないけど町内会の共助が必要な人はいる。
- 共助が必要な方と支援者だけが参加する訓練ではなく、町内会全体で訓練することで、みんなで支える住みやすい町づくりを推進する必要がある。

工夫

- 各要支援者につき、危機管理室職員1名に同行していただく。
- 操南中学校へ中学生ボランティアを募り、訓練内容の充実を図る。

結果

- タスキによる安否確認 83世帯、避難経路確認 58世帯71人が参加した。
（要支援者はタスキ確認100%、避難経路確認50%参加）
- 実際に要支援者（車いす移動含む）が支援者と一緒に避難訓練したことにより、要支援者も支援者も不安が解消できて関係性が深まった。
- 体の不自由な人が避難する際の課題（時間がかかる、段差の危険性等）が分かった。

個別避難計画作成について（手順） ～検証～

6 上藤崎町内会避難訓練

避難訓練の状況



タスキによる安否確認訓練状況



避難訓練状況（中学生による避難誘導）



避難訓練後のWG会議状況（訓練の振り返り等）

個別避難計画作成について（手順）

7 個別避難計画書を完成させる

対応内容

- 計画作成における関係者全員（要支援者のご家族、支援者全員、町内会長、副会長、班長）で操南公民館に集まり、訓練のときの課題を確認した。
- 課題が無いことを確認して個別避難計画書を完成させた。
- 書類の保管について
【原紙】要支援者 【コピー】支援者全員、町内会長、危機管理室
- 今後の対応について全員で情報を共有した。
 - ✓ 個人情報保護のため用紙は紛失しないこと。要支援者や支援者の状況が変われば再度、個別避難計画書を作成すること。
- 関係者打ち合わせで使用したチェックシートを全て回収して、会長預かりで廃棄した。

課題

- 災害時は支援者が自分の身を守った上での支援であることや、万が一支援できなかった場合でも、一切責任は問われないことを共通認識する必要がある。
- 町内会長が交代しても避難方法（いつどこへ誰と避難するか）が分かる必要がある。
- 町内会から要支援者のご家族へ定期的な状況確認が必要である。

課題に対する取り組み

- 個別避難計画書裏面に避難方法（いつどこへ誰と避難するか）と同意文の記載を依頼した。
- 毎年2月頃に要支援者宅へ定期訪問する（町内会長、班長）。状況確認および次の班長へ引継ぐ内容を確認する。（普段関りが無い新班長へ全てを知られたくない場合もある。）

個別避難計画作成について（手順）

個別避難計画書の裏面

私の避難方法について

避難方法	1 どこに避難しますか。	<input type="checkbox"/> 自宅内（ 階 ）	<input type="checkbox"/> 自宅外
	<自宅内にとどまる場合>	<input type="checkbox"/> 手助けが必要	<input type="checkbox"/> 手助けは不要
	支援者（ ）	支援者（ ）	
	支援内容（ ）		
	<自宅外に避難する場合>	<input type="checkbox"/> 手助けが必要	<input type="checkbox"/> 手助けは不要
	避難先①（ ）	<input type="checkbox"/> 車 <input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
	支援者（ ）	支援者（ ）	
	支援内容（ ）		
	避難先②（ ）	<input type="checkbox"/> 車 <input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
	支援者（ ）	支援者（ ）	
支援内容（ ）			
避難先③（ ）	<input type="checkbox"/> 車 <input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
支援者（ ）	支援者（ ）		
支援内容（ ）			
2 いつ避難しますか。	<input type="checkbox"/> 警戒レベル3（高齢者等避難）が発令されたら		
	<input type="checkbox"/> その他（ ）		

同意欄

令和 年 月 日

私は、個別避難計画の内容について、誤り等がないことを確認しました。
また、以下の内容を理解するとともに、個別避難計画の提供に関して同意します。

<input type="checkbox"/>	避難支援は、あくまでも普段からの地域の支え合いによって少しでも災害時の被害を減らそうとするものです。避難支援者の方には、ご自身の安全が確保できる範囲での支援であり、決して責任を問われるものではありません。また、実際の災害時には支援者の不在や被災等より、避難支援ができない場合があります。
--------------------------	---

本人氏名

代理人氏名

（本人との関係）

個別避難計画作成について（ポイント）

聞き取り

- 事前に訪問日時や目的を説明してから訪問したほうがいい。訪問は役員複数人で行く。訪問の場合は要支援者に会える可能性もあり、見て分かる情報もある。
- 電話で聞き取る場合、役員の負担は軽減するが、対面で話せてない分、深い事情を聞き取れない可能性があるため、できるだけ対面での聞き取りが望ましい。
- 要支援者にとって話しやすい人も同席してもらう方がより多くの情報を得られる。
- 要支援者のご家族は、支援してもらうことに遠慮する傾向にある。ご家族だけで支援可能でも、町内会の誰かに気にかけてもらいたい思いがあることを念頭にして聞き取りをする。
- 要支援者やご家族と全く関係性の無い人を支援者として選んではいけない。要支援者やご家族と繋がりのある人に支援協力をお願いする。

個別避難計画作成

- 支援者になる人は責任が重く、負担が大きい。なるべく訓練をして課題がないことを確認して、支援者の不安を取り除いてから個別避難計画書を作成する。
- 避難先が学校の場合はリスクの説明（大勢の人が集まる場、トイレが遠い等）が必要。
- 要支援者のご家族の了承を得た上で次期役員へ情報を引き継ぐ。

その他取り組み ～避難訓練の気づき～

～避難訓練の気づき～

命を守るための気づき

～上藤崎町内会住民の安全・安心プロジェクト～

このあたりは干拓地として形成されたため、平坦で土地が低く、浸水被害が起こる恐れがある地域です。上藤崎は浸水の深さ（0.5～1.0m未満）

災害により想定される被害

- ✓ 家の1階が水につかる
- ✓ 用水路と道の境目が分からなくなって危険
- ✓ 停電や断水の可能性もある（漏電に注意！）
- ✓ 逃げ遅れて人や動物が亡くなる

災害を軽減するための事前準備

【家庭で準備】

- ✓ 洪水・土砂災害ハザードマップで自分の家の浸水深さを確認し、家族（動物含む）で避難するタイミング、避難先、避難方法、家族間の連絡方法などを決めておく
- ✓ 各自の家の浸水に対する強度の確認が必要（特に土壁）
- ✓ 最低3日、できれば1週間分の食料を備蓄しておく
- ✓ 避難所等への避難は、プレーカーなどを切り暗くなる前に避難する。
- ✓ 自宅外への避難は、用水と道路の境目を杖などで確認しながら移動する。移動中に暗くなることも想定して懐中電灯を用意し、お金や通帳も持ち出す。
- ✓ 床上、床下浸水が発生した場合、汚水・汚泥が入ってくるため土のう袋や掃除道具を準備する
- ✓ LPガスを利用されている家庭は、土のうで囲むなどの水害対策が必要
- ✓ 地震のときは揺れが治まってから、ガス、電源を確認し、出入口を開けて避難経路を確保し、早めに避難を始める。

【町内会での対応】

- ✓ 隣近所の安否確認（タスキによる安否確認の強化）
- ✓ 体の不自由な人、高齢者、一人暮らしの人の避難支援
- ✓ 高齢者、児童などの要配慮者は、家族やご近所の方と避難するなど、一人で行動させない
- ✓ お互い様の精神で助け合う（情報共有、自宅避難が困難な人がいるときは受け入れる。）
- ✓ 町内で危険な個所を見つけたら、土木の要望を中へ出す
- ✓ 防犯灯を増やす

まとめ

水害は事前予測が可能な災害の一つであり、自助、共助、公助で被害を軽減することが可能な災害です。避難するためには日頃からの備えが必要です。そのため、改めて各家庭での備えについて見直しましょう。そして、普段から誰かと関わりを持つように心がけ、いざという時に人と人が繋がる町内会にしていきましょう。

～マイ避難先フローチャート～

マイ避難先フローチャート（水害編）

災害が発生して避難が必要になったとき、すぐに行動できるように、事前にマイ避難先（自分の避難先）を決めておきましょう

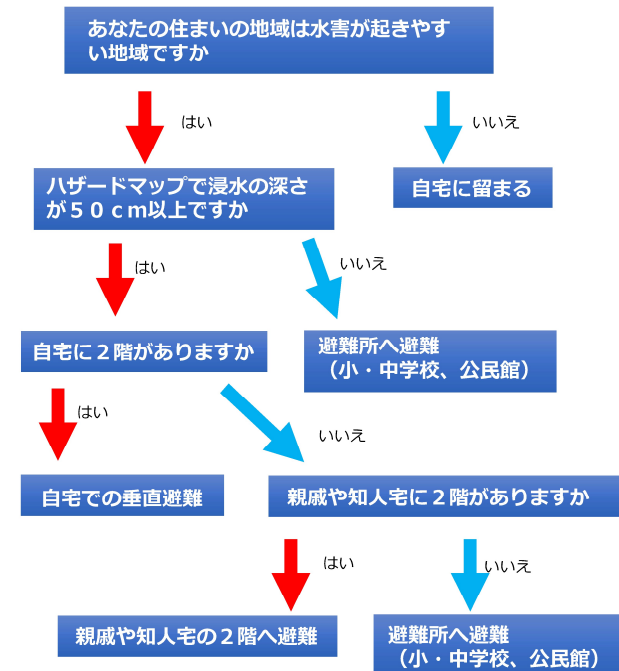
◆ 避難情報：岡山市が発令するものです

➢ 警戒レベル3（高齢者等避難）：避難に時間を要する人（高齢者など）と、その支援をする人は避難を開始しましょう

➢ 警戒レベル4（避難指示）：全員が速やかに避難してください

◆ お住いの地域の浸水被害が起こる恐れがあるか洪水・土砂災害ハザードマップで確認しておきましょう

浸水深さ 0.5m未満 0.5～1.0m未満 1.0～2.0m未満



作成：上藤崎町内会会長 笠松里香

その他取り組み ～自主防災活動～

防災意識の改革（令和元年）

- 8年ぶりに住宅地図付きの防災マップを更新した。
- 班別の緊急連絡網を作成した。※連絡網は毎年更新
- 非常持出袋と非常持出品（一部）を配布し、各戸で非常持出品の準備を推進した。

上藤崎防災講座の実施（令和3年、4年）

操南公民館にご協力をいただき

上藤崎町内会限定の防災講座を実施。（講師：笠松、参加者：町内会会員）

- なまずの学校 上藤崎バージョン（水害発生、安否確認、学校へ避難する）
- 災害伝言ダイヤルの練習
- キムスゲーム

上藤崎防災訓練の実施（令和3年、4年）

危機管理室や防災有識者にご協力をいただき

- 避難訓練（タスキによる安否確認、避難経路確認訓練）
- 防災訓練（タスキによる安否確認）

上藤崎自主防災チーム『操南with』の立ち上げ（令和4年）

- ＜活動理念＞ 出来る事を、出来る人が、出来る時にする
- ＜活動内容＞ 防災活動の支援 推進、小学生、中学生、高校生の防災への関心、参加
- ＜メンバー＞ 佐藤真一隊長、他6名（男性2名、女性4名）

その他取り組み ～町内会の定例事業～

町内会運営の理想

- 町内会の活性化には若い人たちの力が必要である。
- 若い人たちの力が町内会の自主防災力を高める。

自主防災の課題

- 防災意識が個々に異なるため、自主防災活動の内容はイメージがしにくい。
- 若い人たちは自分達で避難できるため、自主防災活動に参加してもらいにくい。

課題に対する取り組み

町内会会員の誰もが活動内容をイメージできて参加しやすい町内会の定例事業を利用して、若い人たちに町内会へ関心を持ってもらう。

- コロナ禍でも活動を止めない。制限される状況下でも出来る工夫を考える（令和3年～）
- 川掃除に中学生ボランティアを導入する（令和3年）
- 川掃除ボランティアを中高大学生に展開し、ボランティア証明書を発行する（令和4年）
- 木野山様祭りや町内川掃除の運営に操南withが加わる（令和4年）
- ラジオ体操の運営に町内会の班長と保護者が加わる（令和4年）

結 果

- 若い人たちの参加が増えて確実に町内会が活性化している。
- 住みやすい町づくりが確実に推進できている。